

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム めぐまるの家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100329		
法人名	有限会社 めぐまるの家		
事業所名	グループホーム めぐまるの家		
所在地	盛岡市北山1丁目16番15号		
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 24 日	評価結果市町村受理日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovsCd=0390100329-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27年3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、スタッフ、利用者、家族との信頼関係を築き、それぞれの距離を縮める。
- 2、利用者のペースに合わせ、寄り添って生活していきたい。
- 3、元気で笑い声が絶えない、みんながホッとする場所になりたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年1月開設、住宅の密集する市街地に立地し階下に同一法人経営の小規模多機能施設と併設する2階に居住している。利用者の持てる力を活かし「ゆっくり・楽しく・一人ひとりの思いの実現」をモットーに、職員が情報共有し見守りながら支援している。近隣住民と「気軽にお茶のみ友達的な付き合い」や「ホームへの理解」を図りたいとの思いのもと、近隣の視覚支援学校周辺の散歩やボランティアとの交流を意図すると共に、主な行事は階下の小規模利用者と同合同開催し利用者同士の交流も大切にしている。当初から終の棲家として、看取りを前提に受入れており関係機関・家族と連携を密にしながら、職員は利用者の重度化・看取りの介護力を高めるべく研修を重ねて実践に繋げていきたいとしており今後の取組みに大きく期待もてる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム むぐまるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	行動指針を掲げ、常に目に入るようにし、職員全員に共有している。	「グループホームむぐまるの家 行動指針」を基に、「ゆっくり・楽しく・一緒に」を目標として支援している。利用者が「できることはできるように」支援する姿勢で取り組み、朝夕の申し送り時に「今日は出来たか」、「笑顔が見られたか」を振り返り毎日確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントに参加したり、地域の方を招いておやつ作りをしたりと交流を深めているが、日常的ではないので今後さらに交流を深めていきたい。	町内会に加入し地域のイベント(作品展示)に参加したり、事業所行事の七夕等に地域の方を招いたりしているほか、開設間もないホームのため地域の関心と理解を図るため、広報紙「与願寿(よがんす)だより」の回覧で情報発信し、地域住民やボランティアに呼びかけ徐々に交流を深めていきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、認知症の人の理解や支援方法等、分かりやすくアドバイスできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや、サービスの状況、イベント等を報告し、会議の中で出た意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。	自治会長や民生委員の地域の方々のほか、家族、行政を委員に委嘱し、1階の小規模多機能と合同で開催し活動報告や事故・苦情などの情報交換を行っている。当面は会議運営の方法を工夫しながら、地域の支援、連携体制の構築を図るための意見・助言を得たいとしている。	会議は地域の理解・交流の在り方や、ホームへの支援・協力、利用者の安心・安全の支援など様々の話し合いの場であるが、例えば、消防、警察などから安心・安全のお話を聞いたり、テーマを設定しての意見交換を行うなど、幅広い活用を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方にも出席していただき、事業所の実情やサービスについて報告し、指導や助言をしていただいている。	運営推進会議を通じて市担当者や包括支援センターから情報や指導を得ているほか、行政とは認定調査等で電話で確認、指導を受ける程度で、地域包括支援センターとの相談や指導を受ける機会が多いとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修は実施していないが、個人の尊厳を尊重し、職員同士で介助方法の話し合いを持ちながら、ケアを行っている。	ホームは2階にあるため1階に降りようとする時「行かないで」などや、厳しい言葉遣いにより驚くこともあることから、否定や禁止の言葉の使い方や対応の在り方について申し送り時に再確認をしながら対応している。	「危ない」から抑制する視点で捉えるだけでなく、「見守りをしながら」の支援する視点を大切にする姿勢で対応したいとしており、引き続きその姿勢で話し合いを通じて身体拘束のない支援に努めることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等から高齢者虐待の知識を身に付け、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不明な点の残らないように話し合い、十分な説明を行うことで理解、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時に利用者の健康状態や日頃の生活状況等を伝えているほか、利用者、家族に意見、要望を聞くよう努めている。	利用者・家族からの意見や要望を把握するための意見箱といったものは特に置いていないが、家族の訪問時や、プランの説明時などを利用して聞くよう努めている。なお、運営推進会議でも活動報告の際に、「ご利用者・ご家族より」との項目を設定し意見を聞く機会を設けている。	「与願寿だより」を家族に送付しているが、例えば、下段欄外などに「何かお気づきの点があるときは、遠慮なく申し出下さい。皆様のご意見を大切にしながら取り組んでいきます。」といった文面を挿入することも一考である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの時に随時話し合いをしている。	毎月、他事業所を含めた法人の全体会議を開催し運営などの情報交換をしている。ホームではミーティング時の場を利用し職員が気づいた事項を話し合いながら運営に反映させている。個人ファイルの保存の在り方や、業務日誌の整備、利用者支援記録の様式の改善など、業務面を通じてのサービスの質の向上に繋がる改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別ケア手当を設ける等して、各自が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師に来ていただき、社内研修を行ったり、外部研修へ参加する機会を持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員との合同研修会を開催し交流が持てるようにしている。相互訪問については、実施してみたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を聞きながら、安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望があれば傾聴し、出来ることは対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を伺いながらサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく中で利用者が出来る事はお願いしている。声を掛けなくても自分から手伝って下さる方もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が受診に付き添ってくれている。また、昔のアルバムや好きな食べ物を持参して面会に来て下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家族、親戚が面会に来られている。	利用者は教師や主婦など多種多様な生活歴を持ち、広範な人や場所の馴染みを持っているものと思われるが、開設間もないことから、当面は家族や親戚との関係継続を大切に、今後は、馴染みの人や場所にも徐々に拡大し支援したいとしている。	利用者情報は、居宅介護支援事業所から得た情報を中心としているが、基本は利用者の意向や希望に沿った的確かつ適切な対応を行なうためのアセスメントを行い、人や場所等の繋がりに係る生活歴を把握し、馴染みの対応に活かすことを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも座る席を固定し、トラブルにならないようにしている。また、利用者の中に入り、みんなで会話できる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者様と職員とのコミュニケーションを大切に、希望、意向の把握に努めている。	入居時の聞き取り調査情報を基に、日々の関わりの中での会話や態度から推測し思いの把握に努めているが、今後は、介護担当者と利用者との信頼関係を深めながら、今の利用者の本音の思いや希望を把握したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、ご家族様とのコミュニケーションを大切に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事象ごとにカンファレンスを行い、介護計画に生かしている。	日々の支援や面会時の家族の話題から担当者が情報を整理し計画(案)をたて、その内容を基に計画作成担当者が中心になり作成している。利用者のADLに変化が見られたときはその都度見直しをしている。	日々一人ひとりの健康状態に気配りしながらの計画づくりの努力は見られるが、一歩進めて、暮らし変化の把握や、利用者の「出来ること」「やりたいこと」の実現のニーズ把握とその実践、適切なモニタリング実施のPDCAプロセスの視点に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に大切に情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りの方法を考え、支援、サービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近所の商店で買い物したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医にお世話になりながら、希望を大切に医療との連携をとっている。	利用者のかかりつけ医は5～6ヶ所にわたり受診は家族対応としているが、都合により職員が対応することもある。往診を依頼している利用者もおり、看護師を中心に医療機関・家族との連携を取りながら適切な健康管理と医療受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告、相談をしながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報共有を行い、又、看護サマリーをいただき、本人家族の意向にそって行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア対応方針を作成し、職員全員に周知。また、家族とも話し合いを持っている。	開設時から重度化や終末期の対応を行なうことを前提とした介護方針を作成し、訪問看護ステーションや医療機関との連携も円滑に図られ、家族との話し合いも持っている。看取りマニュアル整備し、職員も不安解消と心構えを研修と話し合いを通じて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、地域の方々との話し合い等、行っている。	小規模多機能施設と合同の防災訓練を年2回計画している。11月に火災想定シミュレーション避難訓練を行っており実践の避難訓練は3月に実施する。隣近所や地域との協力支援の体制の確立は今後の課題としている。	近隣住民の支援、協力体制の確立が必要と考えるので、運営推進会議で話題にし協力を得たり、消防署の話や聞いたりをしながら災害に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個々の人間として対応している。	守秘義務を守り個人の情報を口外しないとか、利用者のプライドを傷つけるような言葉づかいはいはしないといった一人ひとりの人格を尊重した対応に努めているが、接遇に関わる研修への参加を含め今後、研修を実施したいとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本位で行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのようになるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく声がけをして、楽しい時間になるよう心掛けています。また、決まった人だが、食事の準備、片付けをしている。	利用者の好みに配慮しながら職員が献立をたて、昼・夜の食事は利用者とともに作り、和気あいあい全職員と一緒に食事をしている。時には目先と雰囲気を変えるため、家族との外食やお正月の餅つき、おやつ作りなど実施している。なお、朝食は外部の仕出し利用で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	決まった時間に水分補給をしている。また、利用者個別でも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の時間を把握し、声がけをしたり必要に応じて排泄介助を行っている。	排泄の自立している利用者にはオムツをしないよう継続支援をする、夜間を含めて全員トイレでの排泄とすることを目標として取り組んでいる。一部介助の利用者が1名いるが夜間もトイレ誘導介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、朝食時に乳製品を提供している。また、体操への参加を促している。排便が困難な方については、医師と相談しながらコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	のんびり楽しめるよう個々にそった支援をしている。	浴槽は檜風呂の個浴で利用者は週2~3回程度の入浴頻度となっている。入浴を拒否する利用者もいるが、入浴時間を変更したりや入浴剤を入れたりしながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休まれる方は、カーテンを引いたりして、環境作りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を確実に内服できるように、服薬の支援や内服後の空袋のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い(洗濯たたみや、お茶碗洗い、茶碗拭き等)を体調を見ながら促す。時々、食事作りも得意な方にお手伝いしていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やドライブへ出掛けている。また、事業所敷地内にある畑の野菜の手入れや収穫も行っている。	天気の良い日は、利用者の希望のもとに毎日のように近隣の散歩に出かけ外気浴を楽しんでいる。時には敷地内菜園畑の手入れや収穫に気分転換に向く利用者もいる。いちご狩りやドライブも計画しており、今後も利用者の思いや希望を大切に出かけられるよう支援したいとしている。	利用者の中には多様な経歴を持っている方もおり、外出希望先も多種多様と思われる。自然・文化面の恵まれた環境に立地しており、家族やボランティアの協力も得ながら外出の機会が更に広がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちがないと不安に感じる場合は、家族と相談し、少額の現金を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由に使っていただけるようにしている。手紙のやり取りをしている方は見られていないが、今後やり取りできるよう支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ利用者に不快感を与えないように、温度調節など聞きながら、調整したり、居心地よく過ごせるために工夫している。	室内の床材はクッション性のある材質で、リビング・ダイニングの調理台は四方から調理に関わられるように配置されている。折り紙細工が要素所に飾られ、くつろぎの間は畳でこたつが置かれている。利用者は、空調管理された明るく見晴らしの良い室内でゆったりと過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置き、自由に過ごしていただきながら、居心地が良くなるように日々過ごすように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを置いていただいたり、必要であれば、家族と相談しながら設置するなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室入りロドアの1枚はよはず張り引き戸で共用空間と居室は空調・音感が一体的に保たれ落ち着いた雰囲気が醸し出されている。室内はベッド・布団両用に防水性畳敷とし日用品用整理棚は利用者が一目で見分けられるように工夫されており、テレビや写真・好みの絵が置かれるなど心地良く過ごせるように設けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を理解し、利用者に応じ見守りし、安全に過ごせるように工夫している。		